

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090900129		
法人名	医療法人 木村内科医院		
事業所名	グループホーム彩友		
所在地	福岡県福岡市博多区吉塚1丁目33-10		
自己評価作成日	平成26年3月10日	評価結果確定日	平成26年6月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&amp;PrefCd=40">http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&amp;PrefCd=40</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成26年3月18日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

当GHIは長年、吉塚で地域医療に携わってきた病院が母体の施設です。その事もあり入居者様は吉塚で生活してきた方が多く入居しています。住み慣れた町で最後までその人らしく生活できるように「歴史と人情のある吉塚の地(まち)で家庭的な生活環境のもと私らしくのんびり、ゆったり楽しく暮らせる様支援致します。」を運営理念に掲げ支援しています。又、医療に裏付けられた安心できる介護福祉施設であるだけでなく、地域の方々と交流し、相互の信頼を築ける事業所でありたいと考えております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム彩友」は隣接する木村内科が母体であり、地域医療に長年貢献してきた実績によって、開設時から地域との関係が非常に深い。施設は小規模多機能との併設型で2Fがグループホームであり、1Fには地域交流室も設けられる。病院を中心として、他の医療機関との連携もよくとられており、緊急時の受入もスムーズにされていた。入居者と家族、地域との関わりを大事に、昨年は地元のホテルを借りて職員も交えた大忘年会を企画して非常に喜ばれた。昨年からは外出機会も増やしており、ユニットによっては毎日でも、ドライブや商店街への散歩などちょっとした外出を楽しんでもらうようにしている。外部評価の取組にも積極的で、地域交流も進んできており、入居者も元気が出て活発になってきている。今後も病院とともに、地域を支える福祉事業所として活躍が期待される事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝の申し送り前に声に出して読み上げ業務にあたっている。いつも目に付く場所に理念を掲げている。	立ち上げ時に職員で話し合っただけの事業所独自の理念があり、掲示されている理念を毎日出勤時に読み上げてから業務に入っている。会議などで施設長が法人理念に関して伝えることもあり、理念に沿って「のんびり、ゆったり、楽しく」暮らせるユニットづくりを行っている。	開設時からの理念を共有して業務につなげているが、現在の職員でも振り返りや話し合いの機会を持って、より共有と実践に活かされていくことにも期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	買い物や外食など外出の機会を多くし地域とのかかわりを多く持つように生活している。施設の行事に地域の方をお誘いしたり、地域のイベントに参加している。	区長が近隣に住まれ、よく来訪もあり、町内会だよりで行事案内をもらって地区の運動会への見学を行った。地域で行う認知症サポーターに参加、協力も行い、敬老会には地域ボランティアにきてもらった。商店街の清掃活動には職員が月2回参加しており、地域の餅つきにも招待してもらったこともある。地元の商店街のパンや、和菓子を仕入れて交流をもって移動販売も依頼している。	認知症に関しての地域の理解を深めてもらうような情報発信や、認知症キャラバンメイトの関わりなどに取り組まれていくことにも今後は期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症サポーター研修に参加したり、運営推進会議で認知症について説明している。又、地域の方の見学、相談に対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設のイベントの日に運営推進会議の日程を合わせ地域の方が多く参加できるようにしている。会議でできた要望に対応し施設の概要やサービスの説明等を行っている。又、地域の情報をもらい入居者様とイベントに参加している。	会議は2ヶ月毎に開かれ、併設の小規模多機能と合同で行い、参加者を増やすために敬老会や行事と同日開催するようにして、変化も生まれた。民生委員、地域包括、行政、区長、薬局、婦人会など幅広い参加があり、入居者、家族も参加して行事報告などを行う。地域情報を頂いたり、アドバイスもあり活発な意見交換が行われている。	参加者も多く、活発な会議運営がなされているが、議事録の管理や報告を行うことで、より開かれた運営推進会議の取組みが共有されていくことが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	申請や報告書の提出などで頻回に区役所、地域包括センターに行っている。その際に相談や日々の活動の報告を行っている。	区役所も近いので、報告ごとや相談などは直接窓口を訪問して行うことが多く、週1回程度ある。地域包括にもよく相談などで訪問し、各担当と話しやすく、円滑なコミュニケーションがとられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外は施錠せず外出したい様子があれば一緒に出かけたりと安全面や気分転換を図っている。	1階の玄関はオートロックで外からは入れないが、中からは自由に出入り、徘徊癖のある方にも見守りや、付き添いで対応している。以前のヒヤリハットを踏まえて見守りを強化しており、ユニット入り口にはセンサーチャイムを設置している。今までに身体拘束の事例はなく、研修も半年に1回、伝達、資料回覧も行い、職員同士でも注意をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加やマニュアルをもとに内部研修を行い防止に努めている。自分だけでなく一緒に働く職員同士でも声をかけあい防止している。新人研修にも取り入れている。		

H25自己・外部評価表(GH彩友)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修の参加や内部研修を行っている。管理者はいつでも対応できるように施設独自の研修も受けている。成年後見利用についてご家族の相談に対応している。	以前成年後見制度を利用された方がおり、現在別の方も利用検討中で、事業所から支援して、家族の協力も得ながら外部の専門家と共同している。外部研修にも積極的に参加し、内部研修、具体的な事例を扱った事例検討も行っている。説明用の資料も準備され、職員も基本的な理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解できるまで時間をかけて説明し、納得の上で契約を行っている。不安な事や疑問点にはしっかりと説明を行い、理解してもらっている。退居時も主治医と相談しご家族と協議している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、ご家族、面会者が話しやすいように職員から積極的に話しかけるようにしている。アンケート等でも意見や、要望をお聞きしスタッフ会議にて改善に取り込んでいる。	家族が面会にくることも多く、意見を聞き取っている。家族アンケートも毎年行い、家族会への参加も多い。意見などがあつた時はスタッフ会議で話し合せて報告も行い、お便りによっても随時伝えている。遠方の家族には電話やメールなどでもやりとりをしている。	家族への状況報告のために、運営推進会議の議事報告や、職員によるお便りなど、日頃のサービスがより詳細に伝わるような検討がなされることに期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の朝礼や個人面談を定期的に行い意見や提案を聞いている。又、スタッフ会議で上がった意見や提案を管理者会議で話し合い運営に反映できるように努めている。	ユニットそれぞれで、全員が参加するミーティングが毎月開かれ、申し送りなどで意見を出し合っている。施設全体で月1回の全体朝礼もされている。職員からあがった要望に取り組んでサービス改善にもつなげ、施設長や管理者との面談によっても個別に意見を出すことも出来る。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各委員を設置し評価基準を設けている。その評価に沿って賞与の査定を行い、向上心を持って働ける職場環境・条件の整備に努めている。又、随時個別面談を行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢、性別、国籍を問わずに採用し、経験や実力が十分出せる職場作りを心掛けている。趣味や子どもの行事、資格を取る為に休みや勤務時間を調整している。	資格を問わずに幅広く採用もされ、20～60歳代の職員は男女のバランスもよく、職員同士でよくコミュニケーションをとっている。各委員活動を設けて、分野ごとに責任をもって取組をを推進している。休憩時間や場所も確保されており、シフト調整などもお互いに協力しあつて働きやすい環境づくりに取り組んでいる。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	高齢者虐待防止・身体拘束の排除等人権について内部研修を行い、人権教育について学習する時間を設けている。又、待遇や尊厳の保持について実践されるように常日頃から指導している。	市が行う外部研修に参加して、伝達も行った。事業所内でも虐待や接遇など担当する委員会があり、研修を開いている。日頃から入居者の人権を尊重するように相手と自分を置き換えたケアなどを指導しており、研修会にも毎年計画的に参加している。	

H25自己・外部評価表(GH彩友)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時に新人研修を行っている。各委員を設置し委員毎に毎月内部研修を行っている。又、外部研修希望者が参加できるように勤務の調整を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修などで他施設の活動や情報交換をしたり、意見交換を積極的に行っている。又、他施設の見学を受け入れている。見学時に意見交換を行っている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問し面談を行い、要望を聴くようにしている。入居時も不安にならない様に話す時間を多く作り、ご本人の思いを理解し信頼を得ることに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や入居前の面談時から要望等を聴き納得して契約して頂いている。又、契約時も時間をかけて要望を聴くようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者、ご家族の要望を聴き、入居者の身体機能や全体の生活機能を考えどのようなサービスが必要かを考えて対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるという気持ちを持ち尊敬・感謝を忘れず共に過ごす生活の中で、相談したりアドバイスをもらっている。又、食事作り、掃除、洗濯等できる事を一緒にしてもらっている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族と連絡を取り協議し、共にご本人を支えていく関係作りを築いている。外出、行事、誕生日会等に参加できるようにしている。病院受診もご家族と連携をとり行っている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の来所は自由であり、電話の取次も行っている。又、生活していた地域の商店街や理美容室に行けるように可能な限り支援している。	近くの商店街のパン屋や喫茶店などに行って知り合いに会うことも多い。併設の小規模多機能の利用者に顔なじみがあったり、知人や友人の来訪も多く関係を継続している。個別ケアによって美容室に行ったり、自宅を見に行ったりもしており、一時帰宅に同行支援することもあった。	

H25自己・外部評価表(GH彩友)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人のペースを大事にしている分、関わりが少ない方もいる。同じ時間を共有し関係を深められるように努めている。又、席替えを行ったり、大きなトラブルなく生活できるように支援してる。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の状況に応じた施設や病院の選択、入退居時の情報提供や定期的なお見舞い、亡くなった際の通夜葬儀への参列、ご家族への電話、遺品の整理など、支援をできる限り行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でご本人、ご家族の意向を把握し、出来る限り要望に沿った生活ができるように支援している。又、意思を伝える事ができない入居者に対しては生活の中で把握していく努力を全員でしている。	計画作成担当者が主にアセスメントを行い、定期的に見直しも行っている。本人、家族の他に関係者からも情報を聞き取って意向の把握につなげる。現場の担当職員も一緒にアセスメントすることもあり、現場の意見も反映させている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族より情報提供して頂いたり、日々の関わりの中でご本人より伺いスタッフ間で共有できるように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で入居者の様子観察を行い、申し送り時やスタッフ会議の実施により、現状把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議・申し送り等で常にスタッフ間の意見交換を行い、ご本人、ご家族、主治医の意見を反映した介護計画を作成している。	ユニット毎に様式が異なるが、モニタリングは毎月行い、支援経過とケアプランの実施が連動するように業務管理している。ケアプランの見直しは定期的に1年、必要があれば3ヶ月の短期や、随時の見直しも行う。担当者会議には家族にも参加してもらい、医師や訪問リハビリなどの専門家からも意見をもらっている。	全体での情報共有と、業務管理が進んでいくために、事業所全体での様式の統一と、日々のケアプランの実施状況がチェックできるような記録管理が検討されることが望まれる。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の生活状況を記入し、変化がある場合には申し送りやスタッフ会議で話し合い介護計画に反映させている。又、実践できるようにしている。		

H25自己・外部評価表(GH彩友)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人に応じた支援を考え、家庭行事や社会活動への参加など個々に応じた支援を心がけ、実践している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	緊急時の警察との連携、消防、商店街、民生委員等と協力しながら、生活圏が維持できるよう努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の医療法人が同敷地内にあり、協力医院との連携もスムーズに行っている。ご家族の希望時は送迎、付き添いも行っている。	希望するかかりつけ医を継続できるが、母体病院を主治医とする方が多い。提携医は月2回の往診以外でも訪問することが多く、何かあった時の連絡も取りやすい。他科受診は原則家族にってもらうが、必要な時は事業所の支援も行う。目の前にある薬局と連携して薬の配達や説明なども細かくしてもらうほか、常勤の看護師が1名おり、健康管理は細かく、家族も安心している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師がおり、常に介護士との連携が取れている。協力機関の看護師とも看護師間で常に連携がとれている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設での生活状態を情報提供し、家族やご本人の希望を聞いた上での電話での連絡、直接病院に出向くなどし、医療機関との関係づくりを努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人、ご家族に意向を伺い主治医と相談し希望に応じられるようにしている。又、入居後も常に今後の方針をご家族と話しあっている。	看取りを行ったこともあり、医師を交えて家族と話し合い説明を行って対応した。看護師を中心として職員間の話合いを行い、看取りプランも作成して情報も共有している。希望があれば今後も受入をしていく方針で、提携医が24時間対応もしている。契約時に方針の説明をし、必要時にはカンファレンスをこまめに開き、看取りに関しての研修も行っている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて、マニュアルを作成し研修を行っている。外部の研修に参加している。又、事例検討を行っている。		

H25自己・外部評価表(GH彩友)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の立会いのもと避難訓練を行っている。又、運営推進会議時に地域の方に協力を依頼し避難訓練に参加してもらっている。非常時に備えて飲料水、非常食の準備をしている。	施設全体の防災訓練を年2回、夜間想定を含めて行っている。地域への案内も始め、昨年からは区長にも参加してもらった。運営推進会議でも取り上げ、家族への案内も行っている。緊急時に備え、持ち出しファイルの準備を進めており、AEDや備蓄物の確保もなされている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを忘れず、言葉かけや対応については、誇りやプライバシーを損なわないよう配慮し、特に入浴・排泄介助には気をつけている。	接遇に関して、ホテル勤務経験のある職員を中心として毎月接遇指導を行っている。希望あれば入浴や排泄の同性介助など羞恥心にも配慮し、日頃からサービスに関しての注意、指導も行っている。	お便りや掲示の写真利用に関して、取り交わしている同意書の利用目的の追加や、取り直しが検討されることにも期待したい。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の気持ちを大切に、選択しやすい問いかけを行い、自分で決めることができるよう支援している。又、表現することが難しい方は表情や行動の変化に気配りし、気持ちを汲み取るように心がけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の生活パターン・リズムやその時の状況を把握しながら、ご本人の自らの行動を優先し希望に沿って支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望時に理美容を利用している。男性の髭剃りや女性のマニキュアの支援を行っている。毎日の服装もご本人の決定を優先している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みを普段の会話の中で聞き、メニューに取り入れている。又、昔からの行きつけのお店に外食している。	ユニットそれぞれで調理を行い、能力や活かしてもらって買い物や下ごしらえ、調理などを手伝ってもらうこともある。職員も同じものを一緒に食べて感想を聞き取り、好みに応じて栄養委員会でバランスに配慮したメニューを作る。個別や全体での外食も行い、家族と一緒に調理や、食事を楽しむこともある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご入居様の状態に合わせた携帯で提供し、食事・水分の摂取量のチェックを行っている。又、主治医に報告している。		

H25自己・外部評価表(GH彩友)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご入居者様の状態にあった方法で口腔ケア・義歯洗浄・うがいを行っている。又、必要に応じ訪問歯科の往診を受けている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、排泄パターンを把握することでトイレ誘導や夜間のポータブルトイレ使用等で自力で排泄できるよう支援している。	排泄チェック表は全体で同じものを使い、24時間の管理、把握をしている。職員間で声を掛けあって情報を共有し、入居はそれぞれの介助を行っており、バットなども状況に合わせたものを提案して負担軽減につなげている。変化に気づいたことがあれば職員や看護師とも話し合っており対応している。信頼関係を築いて、不要な露出をさげプライバシーに配慮した介助を心掛けている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を把握すると共に、日頃より入居者様に合わせた水分補給・食事の工夫・運動等を行い、自然排便ができるように支援している。又、状況に応じて主治医・看護師に相談し下剤の調整を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴可能で一人一人の希望に合わせて柔軟に対応している。拒否がある場合は声掛けの工夫や職員を交代したり、時間やタイミングをずらして支援している。	浴室は広く、浴槽を中心にU字型の洗い場があり、三方向介助が出来る。基本的には昼から夕方入浴で、拒まれる方にもタイミングを図って誘導し、少なくとも週2回は入ってもらっている。基本的には個浴で対応し、入浴剤の利用や季節の行事浴なども提供している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動性を高め、夜間に安眠して頂けるよう支援している。日中でもご本人の希望や様子によって休息できるよう支援している。又、居室の温度調節を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬状をいつでも見れるようにしている。変更時は送りノートに記載し申し送り時に伝えスタッフ間で情報を共有できるようにしている。又、誤薬がないように2重に確認している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の中の特性を生かしレクリエーション、家事等のを個別に声掛けしている。又、外出等で気分転換が図れるように支援している。		



H25自己・外部評価表(GH彩友)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望によりご家族、地域の人と協力をえて望む場所へ外出、外食している。又、近くの商店街に散歩に行き買い物をしている。	個別ケアや、全体行事で外食も行い、ユニットの状態によって外出機会を多く確保している。日常的にも気候の良い時はほぼ毎日出かけている。遠方の外出やイチゴ狩りなど様々な計画を企画し、車いすの方や意欲低下が見られる方にも同じように外出を楽しんでもらっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で管理している方お預かりして管理している方と個々の能力に合わせ対応している。施設にヤクルトやパン屋が来る際に購入している。又、商店街での買い物をしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使用できるようにしている。手紙をだす方はいないが届いた手紙は手渡ししている。又、読めない方はスタッフが読み上げている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室、トイレがわかりやすいようにしている。共有空間には入居者様で作った作品を飾り、家庭的な雰囲気心がけている。トイレは排泄後に常に掃除、消毒を行い衛生面も配慮している。	余裕を持った広さのリビングには4人がけの円卓がいくつか置かれ、好きな場所に座って会話を楽しめる。フローリング柄のシートと白木の木材で全体がクリーム色の柔らかい色合いの雰囲気で統一されている。入居者の手による生け花も飾られ、季節感のある空間づくりもなされていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、テーブル等で気の合う人と会話を楽しめるように空間を作っているお茶等をだしくつろげるように心がけている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家財道具を搬入して頂き、身体状態に合わせて配置を行い、好みの物を飾ったり等安心して過ごして頂けるよう工夫している。	介護ベッドと腰高のタンスが備え付けられ、ベッド照明も付けられている。上部の収納棚によって整理もされており、テレビなどの持ち込みも自由である。希望すれば畳に布団で休むことも可能で、夫婦で配置を変えて利用する方もいた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーでトイレや廊下には手すりがあり、入居者様ができることを最大限活かして頂けるようにしている。又、居室やトイレ等に表札をかけわかりやすくしている。		